

コロナ禍の在宅ケアの現状

コロナ禍の外出自粛が続いています。在宅介護が必要なご家族との介護生活を送られているお宅での厳しさが増しているかと思えます。私たちの街の在宅医療や在宅介護を支える訪問診療と訪問介護の現状についてそれぞれの現状をレポートしました。（地区社協会長 日高記）

山口町あすなろクリニック 訪問診療

訪問診療は、通院が困難な方に医師が定期的に訪問する医療です。突発的な体調の変化に要請に応じて訪問する往診とは違い、事前に患者・家族の同意を得て計画的に診療し、二四時間体制でサポートします。

山口町あすなろクリニックは、山口町で訪問診療を行なう数少ない診療所です。岡崎院長に取材しました。



クリニックの概要



開設は二〇一五年五月です。痛みの治療と全身管理を得意とする麻酔科医の経験を生かしてペインクリニックを中心とした外来と在宅医療を柱にしています。

訪問診療の概要

訪問診療は約三十人の方と二施設を訪問しています。一軒当たりの月平均の訪問回数は一、二回です。内容は、循環器疾患、認知症、脳血管疾患、骨折・筋骨格系疾患、糖尿病、呼吸器系疾患等の疾患を複数お持ちの寝たきり状態の方の診療です。

訪問診療の概要

在宅医療は、介護施設

介護のすばる 訪問介護



事業の概要

二〇〇一年一月に小林代表等、女性ばかり六人で居宅支援事業、訪問介護事業を始め、その後、障がい福祉サービス、介護タクシーを追加し現在に至っています。

訪問介護の概要

件数は、約六〇件で、障がい福祉の件数が約三〇件です。一軒当たりの月平均の訪問回数は、各利用者の状況にもよりますが、家事支援は週二回程度で月一〇回前後、身体

訪問介護の留意点

介護は週二、三回程度です。主な業務内容は、家事援助が多く、掃除、調理、買物等、日常生活維持の支援が中心です。

利用者が健康でストレスなく過ごして頂けるようその方にあったサービス提供を心掛けています。ヘルパーは常に明るく、元気に訪問できるように心身ともに健康に過ごせるよう努めています。

事務所は、常に利用者、ヘルパーの状態を把握し、細かい点に気配りをし、両者の困りごとを解決するように努めています。

コロナ感染者の介護

現在、すばるのスタッフは、一名を除き、コロナワクチン接種を完了しています。

また、日常の事務所の消毒、スタッフの消毒等も常に実施しています。

利用者、スタッフにも現在のところ感染者はでておりません。

北六甲台育成センター

育成センターのいま

皆さんは、北六甲台小学校の体育館裏に『北六甲台育成センター』があることをご存じですか？

育成センター（留守家庭児童育成センター）は、就労等により昼間、家庭に保護者がいない小学一年生から三年生までの児童に放課後や長期休業期間中、適切な遊びや生活の場を提供している施設です。西宮市では、全小学校区に設置され、北六甲台育成センターは、市より指定管理者として西宮市社会福祉協議会が運営管理を委託され、年に十回ほど運営委員会を開いています。



指導員の先生、小学校の校長先生、民生委員、保護者の方々と情報交換をしています

今年度から運営委員長

になられた日景浩（ひかげ なぎさ）さんは、三人の息子さんのお母さん。育成センターに通われた時の感想をお聞きました。

「一番は、生活のリズムが身についたことです」と日景さん。育成センターに行く、子どもたちはまず宿題をするそうですが、三年間、育成センターに通われた上のお子さんには六年生になった今でも、学校から帰って来たら宿題をするそうです。

二つ目に良かったことは、「いろいろな経験をさせていただいた」とのこと。けん玉検定や工作、長期休暇中の昼食会など、異なる年齢の子どもたちが交流をしながら色々な経験ができるように、指導員の先生方が工夫をしてくださっています。

九月現在、四六人の子どもたちが通う育成センター。今日も「ただいま」と元気な声が聞こえてきます。（広報部 久慈）

北六甲台小学校六年生の福祉インタビュー

子供たちによる取材

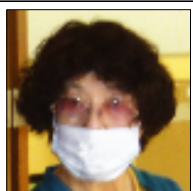
七月十三日汗だくになる程の猛暑日の中、北六甲台小学校六年生（男の子三人、女の子一人）が総合学習の一環で、「私たちを支えてくれている人」を調べることにしました。自分たちのことを支えてくれている人を知り、地域を大切にすることを育てたいとの思いから、ボランティアをされている家庭を訪問してインタビューをすることになったそうです。

相談された子供たちのお母さんは、近所の知り合いで北六甲台地区社協の子育て支援部「ともだちつくろう」のボランティア



ともだちつくろうスタッフ

インタビュー内容



【質問】どんなボランティアをしていますか。

【答え】「ともだちつくろう」のお手伝いをして、参加されたお父さんやお母さんと子育てのお話しをしたり、子供さんと一緒に遊んだりしています。

【質問】始めたきっかけは何ですか。

【答え】子供が好きで地域で交流したいと思ったことです。

【質問】どうして、「ともだちつくろう」のお手伝いをしていくのですか。

【答え】地域の子供さんの安全や見守りの手助けをしたいためです。

【質問】ボランティア活動をして良かったことは何ですか。

【答え】何年経っても、会えば子供たちから声を掛け



けてもらえることです。

【質問】僕たちに出来ることはありますか。

【答え】外ですれ違うことがあれば、挨拶してね。

以上沢山の質問を受け、お答えになりました。インタビューの中で、偶然にもその中の一人は十年ぶりの再会、一期一会の出逢いに西村さんも感激のあまり、思わず涙が出そうになったそうです。

尚、西村さんは、このボランティア活動をされて十五年目になるそうです、「ともだちつくろう」発足時からお手伝いをされています。

インタビューに来られた四人の子供さんよい学習になったことでしょう。（広報部 小出）